

ふるさとの会・支援付き住宅推進会議 合同シンポジウム 生活困窮者の地域生活支援を考える～「たまゆら火災」から10年を迎えて～

概要

- 開催日：2019年2月23日（土）
- 主催：特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会／支援付き住宅推進会議
- 場所：サンパール荒川 -荒川区民会館-第5、6集会室
- 参加者：100名

開催趣旨

2009年3月に「たまゆら火災」が起きてから間もなく10年を迎えます。ふるさとの会と支援付き住宅推進会議は「たまゆらの悲劇を繰り返さない」をスローガンに、実践と提言を積み重ねてきましたが、「困窮、高齢、要介護、障害」の四重苦を抱える人の居場所は十分に確保されていません。

2020年からは生活保護制度で「日常生活支援住居施設」の新事業が始まりますが、「たまゆら問題」の解決につながるのかどうかは、今後の展開次第です。ふるさとの会としては、「支援付き地域」のあり方を展望する中で、地域のセーフティネットとして、また多様な担い手に支えられ、町に開かれた「住居」として機能することを目指しています。

今回のシンポジウムでは、この10年を振り返るとともに、次の10年、20年を視野に入れた大都市モデルのソリューションについて議論しました。

内容

【開会挨拶】

山岡 義典（支援付き住宅推進会議共同代表／NPO 法人市民社会創造ファンド運営委員長）

【報告】

「支援付き住宅」実践の検証 ～なぜ地域でないと支えられないのか～

滝脇 憲（ふるさとの会常務理事）

【講演】

「地域で主体的に生きることの支援」

官島 俊彦 氏（岡山大学客員教授／元厚生労働省老健局長）

【写真右上】

「生活保護受給者の日常生活支援について」

矢田貝 泰之 氏（厚生労働省社会・援護局保護課長）

【写真右下】

【指定発言】

祐成 保志氏（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）



【討論】

「生活困窮者の地域生活支援を考える」

○コーディネーター

高橋 紘士（高齢者住宅財団顧問／支援付き住宅推進会議共同代表）

○支援付き住宅推進会議

五十嵐 正仁（前西東京市福祉部生活福祉課主幹／社会事業大学非常勤講師）

岡田 太造（元厚生労働省社会・援護局長／兵庫県立大学大学院客員教授／NPO 法人すまい・まちづくり支援機構寄りそい支援検定研修制度検討委員長）

沖野 充彦（大阪希望館運営協議会 事務局長／一般社団法人大阪希望館 理事・事務局長）

佐藤 幹夫（フリージャーナリスト／ふるさとの会相談室顧問／『「認知症七〇〇万人時代」の現場を歩く』著者）

立岡 学（特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台理事長）（代理 平井知則）

林 泰義（NPO 法人玉川まちづくりハウス運営委員）

的場 由木（NPO 法人すまい・まちづくり支援機構常務理事／更生保護法人同歩会副理事長）

○オブザーバー

横川 隆夫（元東京都職員／NPO 法人すまい・まちづくり支援機構 寄りそい支援検定研修制度検討委員会事務局参与）

